

お 知 ら せ
平成 24 年 5 月 11 日
福島地方気象台

平成 24 年 5 月 6 日に福島県大沼郡会津美里町で発生した突風について（第 2 報）
（気象庁機動調査班[JMA-MOT]による現地調査の報告）

5 月 6 日 11 時 20 分頃に福島県大沼郡会津美里町沼田（おおぬまぐんあいづみさとまちぬまた）地区から小沢（おざわ）地区にかけて突風が発生し、ビニールハウスの損壊や住家のトタン屋根がはがれるなどの被害が発生しました。

このため 5 月 7 日に福島地方気象台は職員を気象庁機動調査班（JMA-MOT）として派遣し現地調査を実施しました。また、その後も情報収集を行いました。結果は以下のとおりです。

（1）突風をもたらした現象の種類

この突風をもたらした現象は、竜巻の可能性が高いと判断した。

（根拠）

- ・ 被害の発生時刻に被害地付近を活発な積乱雲が通過中であった。
- ・ 渦をまいたものが、ビニールハウスのビニールを巻き上げながら、山側から移動してきたとの証言があった。
- ・ 漏斗雲と見られる雲の垂れ下がりが接地し、物を巻き上げたとの証言があった。

（2）強さ（藤田スケール）

この突風の強さは藤田スケールで F0 と推定した。

（根拠）

- ・ 複数の住家でトタン屋根がはがれた。
- ・ 細い樹木の幹折れが複数あった。
- ・ ビニールハウスの損壊が複数あった。

※この資料は、速報として取り急ぎまとめたもので、後日内容の一部訂正や追加をすることがあります。

本件の問い合わせ先

福島地方気象台 防災業務課 024-534-0321
技 術 課 024-534-2162

参考 藤田スケール（Fスケール）

竜巻やダウンバーストなどの風速を、構造物などの被害調査から簡便に推定するために、シカゴ大学の藤田哲也により 1971 年に考案された風速のスケール（日本気象学会編、1998）です。

F0	17～32m/s (約 15 秒間の平均)	煙突やテレビのアンテナが壊れる。小枝が折れ、また根の浅い木が傾くことがある。非住家が壊れるかもしれない。
F1	33～49 m/s (約 10 秒間の平均)	屋根瓦が飛び、ガラス窓は割れる。またビニールハウスの被害甚大。根の弱い木は倒れ、強い木の幹が折れたりする。走っている自動車が横風を受けると道から吹き落とされる。
F2	50～69 m/s (約 7 秒間の平均)	住家の屋根がはぎとられ、弱い非住家は倒壊する。大木が倒れたり、またねじ切られる。自動車が道から吹き飛ばされ、また汽車が脱線することがある。
F3	70～92 m/s (約 5 秒間の平均)	壁が押し倒され住家が倒壊する。非住家はバラバラになって飛散し、鉄骨づくりでもつぶれる。汽車は転覆し、自動車が持ち上げられて飛ばされる。森林の大木でも、大半は折れるか倒れるかし、また引き抜かれることもある。
F4	93～116 m/s (約 4 秒間の平均)	住家がバラバラになってあたりに飛散し、弱い非住家は跡形なく吹き飛ばされてしまう。鉄骨づくりでもペシャンコ。列車が吹き飛ばされ、自動車は何十メートルも空中飛行する。1 t 以上もある物体が降ってきて、危険この上ない。
F5	117～142 m/s (約 3 秒間の平均)	住家は跡形もなく吹き飛ばされるし、立木の皮がはぎとられてしまったりする。自動車、列車などが持ち上げられて飛行し、とんでもないところまで飛ばされる。数トンもある物体がどこからともなく降ってくる。

気象科学事典（日本気象学会編、1998）より